

皆様、おはようございます。日に日に朝晩は過ごしやすくなってまいりました。昼と夜との気温差が大きいです、どうぞ皆様ご健康にお気を付けください。

今日はヒラデルヒヤの教会への主の手紙です。7つのうち6つ目の教会まで進みました。このヒラデルヒヤの町は紀元前150年頃建てられた比較的歴史の浅い、小さな町でした。その上紀元17年に地震があり、町は倒壊しましたが、間もなく皇帝テベリオの援助により復興されたそうです。

7 ヒラデルヒヤにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『聖なる者、まことなる者、ダビデのかぎを持つ者、開けばだれにも閉じられることがなく、閉じればだれにも開かれることのない者が、次のように言われる。

「聖なる者、まことなる者」とイエス様は自己紹介しておられます。

「聖なる」とは、単なる汚れのない道徳的なきよさを意味するばかりではなく、被造物とは明確に区別され、超越した神ということの意味する語です。

マルコ 1:23 ちょうどその時、けがれた霊につかれた者が会堂にいて、叫んで言った、

1:24 「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。

ルカ 5:4 話がすむと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われた。

5:5 シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」。

5:6 そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群れがはいって、網が破れそうになった。

5:7 そこで、もう一そうの舟にいた仲間に、加勢に来るよう合図をしたので、彼らがきて魚を両方の舟いっぱいに入れた。そのために、舟が沈みそうになった。

5:8 これを見てシモン・ペテロは、イエスのひざもとにひれ伏して言った、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者です」。

5:9 彼も一緒にいた者たちもみな、取れた魚がおびただしいのに驚いたからである。

まこと、真実であるというのも、まさに神様のための呼称です。誰が真実でなくても神様こそが真実なお方です。神様は見捨てることもなく、欺くこともなく、いつも誠実で愛に満ちておられます。受けることよりも与えることを愛し、仕えられるよりも仕えることを望まれ、真実に満ちたお方です。

イエス様は、この「聖」、超絶した力と「真実」、まことで真実、愛に満ちた神様としてご自身を紹介され、ご自分の名のゆえに迫害され、教えを捨てるように、さもないと追放し、門を閉ざし、つまはじきにするぞとの脅迫を受ける教会の弟子たちを励まされました。私こそが、聖く、まことなる神、私を信じなさいと優しく語りかけられます。

ダビデのかぎを持つ者、開けばだれにも閉じられることがなく、閉じればだれにも開かれることのない者が、次のように言われる。

ダビデの鍵。それはダビデの家、王宮の鍵を意味し、この鍵を持つ者は王宮の門の開閉を司る者。王宮の出入りを司る者です。それをたとえて、天のキリストの王宮、天国への鍵を司る者を意味します。

「開けばだれにも閉じられることがなく、閉じればだれにも開かれることのない者」

この方が開けて下されば、誰がどう文句を言おうとも、妨害しようとも、誰によっても閉じられることはない。

小さな町、地震に大揺れしたヒラデルヒヤの迫害の激動と嵐の中であって、キリスト者たちは、この後に出てきます、「サタンの会堂に属する者、すなわち、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくて、偽る者たち」によってどれだけ苦しめられたのでしょうか。この異端者、神を冒瀆して犯罪人として十字架につるし上げられたものの残党と称して、ユダヤ人、神の民の名において成敗するとの圧力のいかにすさまじかったのでしょうか。しかしここにもありますように、自信をもって、大手で私たちこそ神のユダヤ人と言っていた人の方こそが落後者であり、サタンの会堂に属するものだったのです。その信じ切っていたものが全くの誤りであったということに気づく驚きと恐怖は、パウロが意気揚々とダマスコ途上を進んでいた時に彼の身に何が起こったかがはっきりと物語っています。イエス様を十字架につけた偽りの信仰を持っていた神殿を守る大祭司や学者たちの神殿が粉々に壊された時、彼らに何が残っていたのかを考えますと、本当に人の浅はかさと弱さがしみじみと感じさせられ、恐ろしく感じ、神様の前に頭を垂れて謙遜に聞き従うことの何と難しくも大切なことなのかが教えられます。

「開けばだれにも閉じられることがなく、閉じればだれにも開かれることのない者」

弱々しくも信仰に生きる者たちのためには、この地上でいかに脅され、門から掃き出して捨ててしまうぞと言われても天の門は開き、どんなにか脚光を浴びて飛ぶ鳥を落とす勢いであっても、神様の前に偽りであれば門は閉ざされ、開かれることはない。この厳粛なる権能をお持ちであるイエス様こそを恐れるべきことが教えられます。

8 わたしは、あなたのわざを知っている。見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じるこ

とのできない門を開いておいた。なぜなら、あなたには少ししか力がなかったにもかかわらず、わたしの言葉を守り、わたしの名を否まなかったからである。

9 見よ、サタンの会堂に属する者、すなわち、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくて、偽る者たちに、こうしよう。見よ、彼らがあなたの足もとにきて平伏するようにし、そして、わたしがあなたを愛していることを、彼らに知らせよう。

主は、私たちが心細く、か弱く力弱く、その集いが本当に少ない群れであり、困難に取り囲まれ、圧力をかけられ村八分、悲しみと涙の内にあることをよく知っておられます。

「見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。なぜなら、あなたには少ししか力がなかったにもかかわらず、わたしの言葉を守り、わたしの名を否まなかったからである。」

少ししか力がなく、大きな力はなく、波風に翻弄されながら、かろうじて主の言葉を守り、主イエス様の御名を否まなかった。その歩みをも見ておられました。

しかしその中にも、ペテロのような弱さが一時たりともなかったとは言えなかったのではないのでしょうか。

マルコ 14:27 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼いを打つ。そして、羊は散らされるであろう』と書いてあるからである。

14:28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」。

14:29 するとペテロはイエスに言った、「たとい、みんなの者がつまずいても、わたしはつまずきません」。

14:30 イエスは言われた、「あなたによく言うておく。きょう、今夜、にわとりが二度鳴く前に、そう言うあなたが、三度わたしを知らないと言うだろう」。

14:31 ペテロは力をこめて言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」。みんなの者もまた、同じようなことを言った。

14:37 それから、きてごらんになると、弟子たちが眠っていたので、ペテロに言われた、「シモンよ、眠っているのか、ひと時も目をさましていることができなかったのか。

14:38 誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。

14:66 ペテロは下で中庭にいたが、大祭司の女中のひとりがきて、

14:67 ペテロが火にあたっているのを見ると、彼を見つめて、「あなたもあのナザレ人イエ

スと一緒にいた」と言った。

14:68 するとペテロはそれを打ち消して、「わたしは知らない。あなたの言うことがなんの事か、わからない」と言って、庭口の方に出て行った。

14:69 ところが、先の女中が彼を見て、そばに立っていた人々に、またもや「この人はあの仲間のひとりです」と言いだした。

14:70 ペテロは再びそれを打ち消した。しばらくして、そばに立っていた人たちがまたペテロに言った、「確かにあなたは彼らの仲間だ。あなたもガリラヤ人だから」。

14:71 しかし、彼は、「あなたがたの話しているその人のことは何も知らない」と言い張って、激しく誓いはじめた。

14:72 するとすぐ、にわとりが二度目に鳴いた。ペテロは、「にわとりが二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われたイエスの言葉を思い出し、そして思いかえして泣きつづけた。

ルカ 22:25 そこでイエスが言われた、「異邦の王たちはその民の上に君臨し、また、権力をふるっている者たちは恩人と呼ばれる。

22:26 しかし、あなたがたは、そうであってはならない。かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者のようになるべきである。

22:27 食卓につく人と給仕する者と、どちらが偉いのか。食卓につく人の方ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。

22:28 あなたがたは、わたしの試練のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人たちである。

22:29 それで、わたしの父が国の支配をわたしにゆだねてくださったように、わたしもそれをあなたがたにゆだね、

22:30 わたしの国で食卓について飲み食いをさせ、また位に座してイスラエルの十二の部族をさばかせるであろう。

22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを妻のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

22:33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。

22:34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言うておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

イエス様は「わたしの試練のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた」と語られましたが、本当に弟子たちはそうしたのでしょうか。ゲッセマネの祈りの場では主と共にひと時

でも眠らずにいることが出来ず、迫害の中には主を捨てて逃げ惑い、そんな弱い自分の姿を突き付けられてさめざめと泣くだけの自分を知らされるばかりなのではないでしょうか。

しかし、そんなどうしようもなく弱い私たちであっても、弟子と呼ばれるにふさわしくないような、サタンがふるいにかけて不適合と高笑いをするような私たち、弱く府外のないものであったとしても、主を捨て、主を否み、紅海の涙に明け暮れた者にも、主はこう語って下さるのです。

「あなたには少ししか力がなかったにもかかわらず、わたしの言葉を守り、わたしの名を否まなかった」

何という思召し、何という憐れみなのでしょうか。

「見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。なぜなら、あなたには少ししか力がなかったにもかかわらず、わたしの言葉を守り、わたしの名を否まなかったからである。」

かくなる上は、私たちはこの開いて頂いている天の門を見上げ、それは主の贖いの御業によって唯々開いて頂いた神様の恩寵と感謝して、いよいよ主の御言葉を守り愛し、私たちの唯一の主、私たちのために死に、身代わりの死を遂げて下さった、私たちを愛されたわが主イエス・キリストの御名を畏れかしこみ、感謝してこの御名を頂き、この御名によって、このイエス様によって生涯の歩みの土台として、困難の地震の大振動の中を、ひたすらに上を見上げて進んでいきたいと願うのです。

9 見よ、サタンの会堂に属する者、すなわち、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくて、偽る者たちに、こうしよう。見よ、彼らがあなたの足もとにきて平伏するようにし、そして、わたしがあなたを愛していることを、彼らに知らせよう。

イザヤ 60:14 あなたを苦しめた者の子らは、かがんで、あなたのもとに来、あなたをさげすんだ者は、ことごとくあなたの足もとに伏し、あなたを主の都、イスラエルの聖者のシオンとなえる。

かつては異邦人が神の民を苦しめ、神様がイスラエルの民の前に、神様に不忠実な者たちをひれ伏させ、神様の救いを現してくださったのですが、今は逆になりました。彼らは自称ユダヤ人に成り下がってしまいました。祭司長、律法学者たちを始め、多くのユダヤ人たちは礼拝を捧げながらも自らの腹に仕え神様を忘れてしまいました。

ローマ 16:17 さて兄弟たちよ。あなたがたに勧告する。あなたがたが学んだ教にそむいて分裂を引き起し、つまずきを与える人々を警戒し、かつ彼らから遠ざかるがよい。

16:18 なぜなら、こうした人々は、わたしたちの主キリストに仕えないで、自分の腹に仕え、そして甘言と美辞とをもって、純朴な人々の心を欺く者どもだからである。

彼ら自称ユダヤ人で、サタンの会衆と成り下がってしまった者たちは、自分たちが高圧的に責め、支配し、冷遇し、追放しようとしたそのキリスト者の前に、自分の過ちのゆえに懺悔しひれ伏し、神様がこの事を通してどんなにかキリスト者を愛しておられるのかを知らされるのです。神様はすべてのことを通して、私たちをことのほか愛していて下さいます。

ローマ 8:26 御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。

8:27 そして、人の心を探り知るかたは、御霊の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御霊は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。

8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

10 忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも、地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時に、あなたを防ぎ守ろう。

11 わたしは、すぐに来る。あなたの冠がだれにも奪われないように、自分の持っているものを堅く守っていなさい。

12 勝利を得る者を、わたしの神の聖所における柱にしよう。彼は決して二度と外へ出ることはない。そして彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、天とわたしの神のみもとから下ってくる新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを、書きつけよう。

忍耐についてのわたしの言葉を守ったのかどうか。ただ必死に日々の生活を踏ん張って、かろうじて信仰に進んできたに過ぎません。それすらあやふやなものをこのように言って頂くと、大変に恐縮です。

「わたしも、地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時に、あなたを防ぎ守ろう。」

むしろあの試練、この試練の時にあなたが守り、防いでくださったから今があるのではないのでしょうか。

「勝利を得る者を、わたしの神の聖所における柱にしよう」

押しも押されもしない、屋台骨に。神殿の柱にしよう。何という過分なるお言葉なのでしょう

うか。

「彼は決して二度と外へ出ることはない。」

神殿の柱として私たちを取り囲み、守り、困難の中にも決して迷い出ることがないように。もう二度と。それはかつて神様の所から困難に耐えきれずに逃げ出してしまったということを示唆しているのでしょうか。ペテロしかり、旧約のモーセしかり。ヤコブしかり。ダビデもまたしかり。道を外し、失意の中逃げ出し、後悔の涙を流した人がどれほどいることでしょうか。しかし主は私たちが二度と外にはみ出してしまわないようにと、温かいご配慮をもって、私たちの罪をほじくり返すことなく神殿の柱にまでしてあたたかくも尊く、私たちを匿ってくださるのです。「そして彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、天とわたしの神のみもとから下ってくる新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを、書きつけよう。」とまで言って下さるのです。

13 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい

耳ある者として生きたい。耳を開いて主のみ声を慕い求めていきたいと強く願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。試練と困難の多い世の中にあっても、あなたが私たちを守っていて下さいますことをありがとうございます。その上は、私たちの立場がいかに弱く、状況が困難であろうとも、私たちの生命線である主の御言葉をもイエス様への信仰をも見失ってしまうことがないように、私たちをお守りください。天の門は私たちの前に開いていますことをありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン